

2023年3月期第1四半期 連結決算

(2022年4月-6月)

2022年8月8日



1. 第1四半期決算のポイント

第1四半期としては、経営統合以来、売上高・営業利益をはじめ、下記全てにおいて最高益

- 売上高 2,326億円(前年比:14.9%増)、営業利益 79億円(前年比:24.9%増)、
経常利益 122億円(前年比:72.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益 77億円(前年比:52.1%増)
- 特にペットフード事業(タイ)とスケソウダラ事業(北米)が欧米の好調な需要に応え販売増加。また、養殖魚を含む水産物の外食・業務筋向け販売が回復。水産物の相場が上昇するなか、当社調達力へのニーズが高まり、販売好調。

第2四半期以降

- 以下3点により、トップラインについては引き続き増収傾向が続く。
 - (1)水産物相場は高止まり。得意先ニーズに応え、販売数量は維持。
 - (2)加工食品の値上げによる増収。
 - (3)在外子会社業績の円安効果による為替換算増が、第2四半期より表出する。

2. 連結損益計算書

(単位:億円)

	22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比
売上高(収益認識基準適用後)	2,326	2,025	301	9,000	26%
売上原価	1,987	1,724	263		
売上総利益	339	302	37		
販売費・一般管理費	260	239	22		
営業利益	79	63	16	240	33%
営業外収益	48	16	32		
営業外費用	5	8	△ 3		
経常利益	122	71	51	250	49%
特別利益	4	3	1		
特別損失	3	7	△ 4		
税金等調整前四半期利益	122	67	55		
法人税等	33	12	21		
非支配株主に帰属する四半期純利益	13	5	8		
親会社株主に帰属する四半期純利益	77	50	26	160	48%

営業外収益の主な要因は、為替差益28億円によるもの

段階利益すべてにおいて、第1四半期としては経営統合以来、最高益

3. セグメント・ユニット別 実績／年間計画比

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比	22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比
水産資源	漁業	76	72	4	353	22%	△ 5	△ 1	△ 4	22	-
	養殖	41	32	9	137	30%	7	△ 3	10	0	-
	水産商事	719	615	104	2,682	27%	23	11	12	35	66%
	海外	452	358	94	1,909	24%	28	20	8	78	36%
セグメント小計		1,288	1,077	211	5,081	25%	53	27	26	135	39%
加工食品	加工食品	248	244	4	990	25%	8	16	△ 8	39	21%
	ファインケミカル	20	20	△ 1	73	27%	4	4	0	14	29%
セグメント小計		268	264	4	1,063	25%	12	20	△ 8	53	23%
食材流通	食材流通	521	441	80	2,004	26%	8	8	0	29	28%
	畜産	205	200	5	672	31%	4	3	1	9	44%
セグメント小計		727	641	85	2,676	27%	13	11	2	38	34%
物流	物流	43	42	1	177	24%	3	4	△ 0	15	20%
その他		1	1	△ 0	3	33%	1	1	0	2	50%
全社		-	-	-	-	-	△ 4	1	△ 4	△ 3	-
合計		2,326	2,025	301	9,000	26%	79	63	16	240	33%

4-①. 水産資源セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比	22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比
水産資源	漁業	76	72	4	353	22%	△ 5	△ 1	△ 4	22	-
	養殖	41	32	9	137	30%	7	△ 3	10	0	-
	水産商事	719	615	104	2,682	27%	23	11	12	35	66%
	海外	452	358	94	1,909	24%	28	20	8	78	36%
セグメント小計		1,288	1,077	211	5,081	25%	53	27	26	135	39%

第1四半期 事業概況

漁業

メロを始め主要魚種の販売好調で増収、燃油価格や海上運賃の高騰により減益。

養殖

量販店や外食向けの販売数量増加・販売価格の改善に加え、取扱魚種の相場上昇もあり、増収増益。

水産商事

外食・業務筋向け販売の回復に加え、魚価高や円安の進行による水産物全般の相場の先高感から、当社調達力へのニーズが高まり成約が進み、増収増益。

海外

[北米]生産効率の向上や新規獲得のスケソウダラアクセス権益が生産増に寄与し、加えて堅調なマーケットの中で販売価格が上昇したことにより、増収増益。

[欧州]水産物需要拡大に対応した仕入・販売により、増収増益。

[アジア]タイのペットフード事業の北米向け販売が好調で増収増益。

第2四半期 見通し

事業環境は継続の見込み。

事業環境は継続の見込み。

仕入価格の上昇に対して国内市況の鈍化を想定。

水産物販売・ペットフード事業ともに、欧米では引き続き需要が見込まれ、販売好調も持続。また新規獲得した欧州の販売チャンネルが機能することによる販売網拡大に期待。

4-②. 加工食品セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比	22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比
加工食品	加工食品	248	244	4	990	25%	8	16	△ 8	39	21%
	ファインケミカル	20	20	△ 1	73	27%	4	4	0	14	29%
セグメント小計		268	264	4	1,063	25%	12	20	△ 8	53	23%

第1四半期 事業概況

加工食品

内食需要が継続するなかで簡便食としてのニーズが堅調。一部商品で値上げを実施したものの、原材料・資材、燃料コストの高騰および円安の進行などにより減益。

ファインケミカル

医薬品原薬の販売が次四半期にずれて減収となったものの、DHA・EPAを中心に健康食品向けの販売が好調で増益。

第2四半期 見通し

価格改定を実施し、コストの上昇分をカバーしていく。

新規取扱であるヘパリン*の販売開始により増収を見込む。

* 血液凝固阻止作用のある物質で、血栓症の治療や人工透析の際に使用される

4-③. 食材流通セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比	22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比
食材流通	食材流通	521	441	80	2,004	26%	8	8	0	29	28%
	畜産	205	200	5	672	31%	4	3	1	9	44%
セグメント小計		727	641	85	2,676	27%	13	11	2	38	34%

第1四半期 事業概況

食材流通

人流の増加にともない外食向け販売が回復し、量販店、コンビニエンスストア、介護食向けも堅調に推移。原材料の高騰や円安の進行があったものの、生産性の向上や効率化が進み、増収増益。

畜産

欧州産豚肉の取扱い増加や、全般的な輸入畜肉相場の上昇により増収。また、国産牛肉および北米産豚肉の収益率改善も寄与し、増益。

第2四半期 見通し

事業環境は持続。新型コロナウイルス再拡大に備え、あらゆる販売チャネルへの対応を進める。

高値が続く輸入畜肉品の、仕入価格に対応した販売価格をめざす。

4-④. 物流セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比	22年6月期	21年6月期	増減	年間計画	年間計画比
物流	物流	43	42	1	177	24%	3	4	△0	15	20%

第1四半期 事業概況

海外からの輸入品を中心に保管在庫数量の回復が遅れるなか、大都市圏を中心に在庫数量の増加に努め増収。一方で、燃料コスト調整単価の上昇にともなう動力費の大幅な増加などにより減益。

第2四半期 見通し

保管需要は回復基調。

5. 連結貸借対照表

(単位:億円)

	22年6月末	22年3月末	増減		22年6月末	22年3月末	増減
流動資産	3,694	3,243	451	流動負債	2,591	2,215	376
現預金	210	250	△ 39	仕入債務	451	362	89
売上債権	1,270	1,154	116	短期借入金	1,651	1,385	267
棚卸資産	2,046	1,727	319	その他	489	468	20
短期貸付金	3	3	0	固定負債	1,532	1,392	140
貸倒引当金	△ 4	△ 4	△ 0	長期借入金	1,257	1,121	136
その他	170	114	56	その他	275	270	4
				負債合計	4,123	3,607	516
固定資産	2,411	2,243	169	株主資本	1,560	1,533	27
有形固定資産	1,458	1,402	55	資本金	200	200	0
無形固定資産	312	220	91	剰余金	1,382	1,334	48
(内のれん)	86	80	7	自己株式	△ 22	△ 1	△ 21
投資その他資産	642	620	22	その他包括累計	113	69	45
				非支配株主持分	310	277	33
				純資産合計	1,983	1,879	104
資産合計	6,106	5,486	620	負債純資産合計	6,106	5,486	620

【資産の増加(620億円)】 販売好調・原料高・季節要因による売上債権と、棚卸資産(主に水・畜産物)の増加、北米スケウダラ関連資産取得による、有形・無形固定資産の増加によるもの。

【負債の増加(516億円)】 主に、有利子負債の増加(403億円、前年同期比は288億円)によるもの。

6. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	22年6月期	21年6月期	増減	主な内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 207	24	△ 231	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前当期純利益 (+122) ・減価償却費 (+36) ・売上債権の増減<増加:△> (△94) ・棚卸資産の増減<増加:△> (△261) ・仕入債務の増減<減少:△> (+42) ・法人税等の支払額 (△26)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 144	△ 49	△ 95	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 (△62) ・有形固定資産の売却による収入 (+3)
財務活動によるキャッシュ・フロー	302	△ 29	331	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の増減<減少:△> (+232) ・長期借入れによる収入 (+227) ・長期借入金の返済による支出 (△81)
現金・現金同等物の期末残高	205	270	△ 65	—

お問い合わせ先

マルハニチロ株式会社 経営企画部 IRグループ
メール：ir-info@maruha-nichiro.co.jp

Appendix

セグメント・ユニット改編(2022年4月~)①

2022年3月期 実績

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高	営業利益
水産資源	漁業	315	3
	養殖	146	0
	水産商事	1,598	40
	荷受	1,889	9
	海外	1,479	87
	計	5,427	138
加工	家庭用冷凍食品	529	15
	家庭用加工食品	332	21
	業務用食品	1,207	21
	畜産	711	7
	化成	181	15
	計	2,960	78
物流	物流	146	11
その他		134	7
全社		-	3
合計		8,667	238

2023年3月期 計画

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高	営業利益
水産資源	漁業	353	22
	養殖	137	0
	水産商事	2,682	35
	海外	1,909	78
	計	5,082	135
加工食品	加工食品	990	39
	ファインケミカル	73	14
	計	1,063	53
食材流通	食材流通	2,004	28
	畜産	672	9
	計	2,676	38
物流	物流	177	15
その他		3	2
全社		-	▲3
合計		9,000	240

水産資源

加工食品

食材流通

セグメント・ユニット改編(2022年4月～)②

【改編内容】

水産資源セグメント

- ・水産商事ユニット...直販事業を食材流通ユニットに移管し、荷受ユニットを統合。

加工食品セグメント

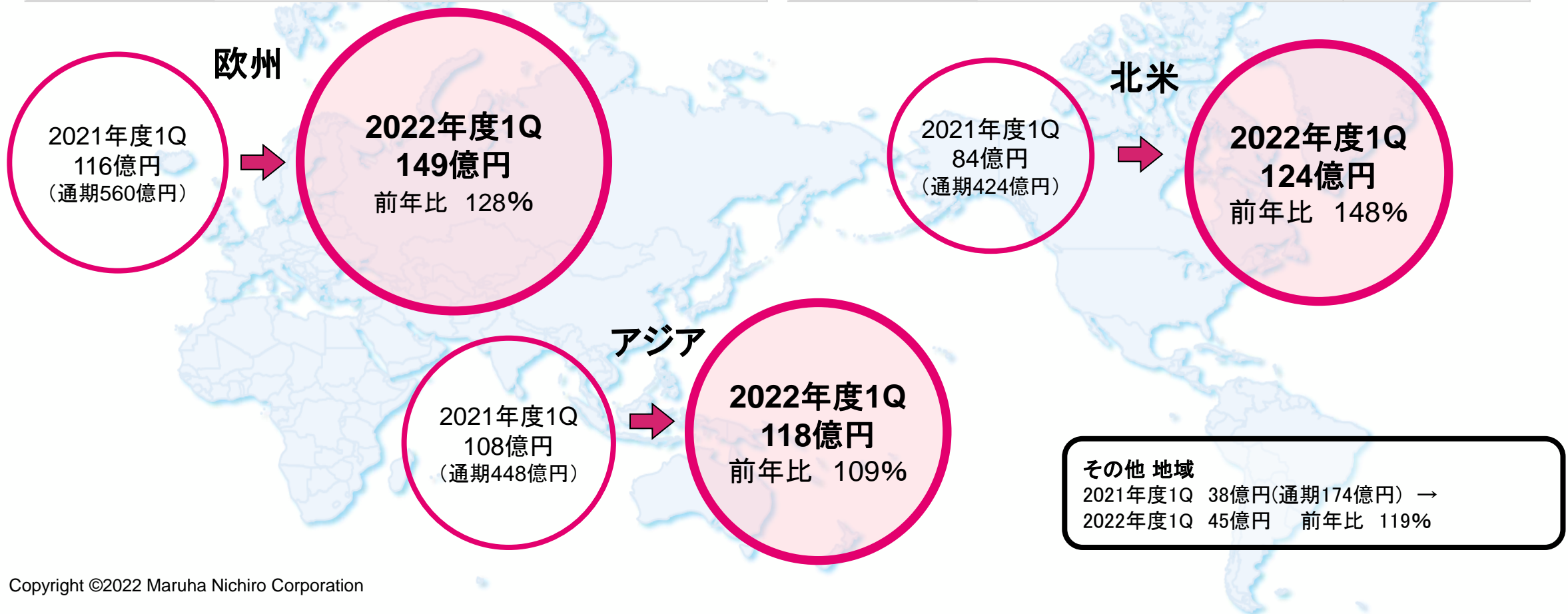
- ・加工食品ユニット...家庭用冷凍食品ユニットと家庭用加工食品ユニットを統合。
化成ユニットより、調味料・乾燥食品事業(魚介エキスやフリーズドライ製品)を移管。
- ・ファインケミカルユニット...化成ユニットを名称変更。調味料・乾燥食品事業を加工食品ユニットに移管し、化成品事業のみのユニット。

食材流通セグメント(新設)

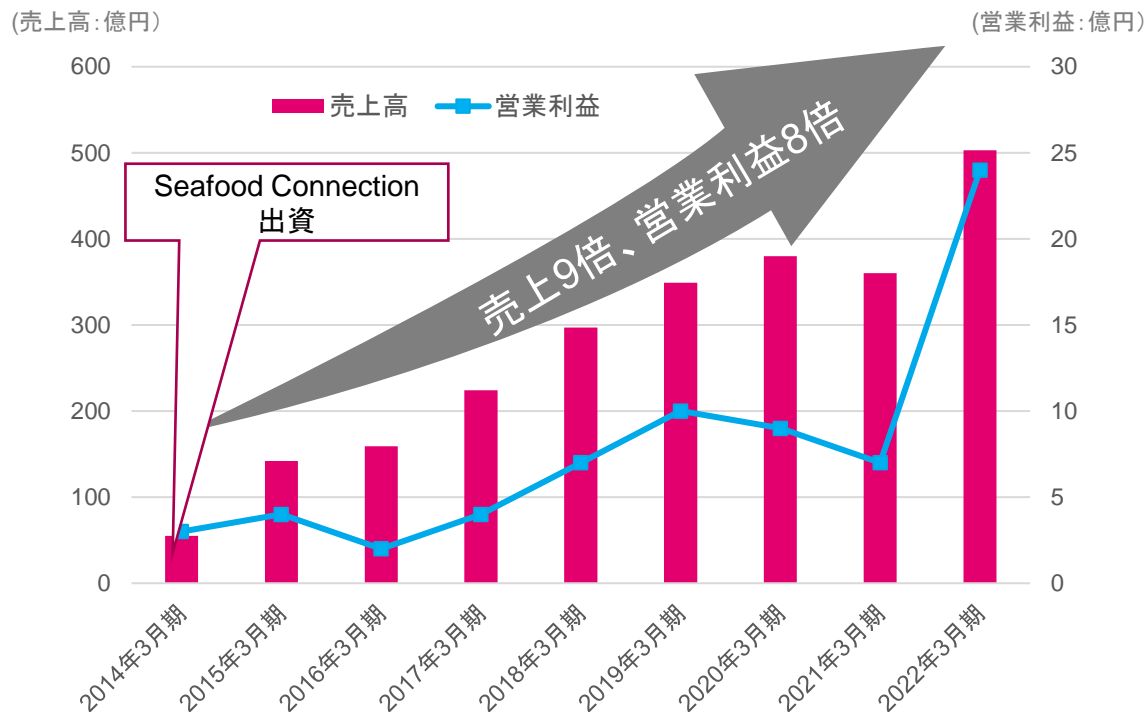
- ・食材流通ユニット...業務用食品ユニットと水産商事ユニットの直販事業を統合。
顧客起点の販売チャネル(食品卸、量販店、外食・給食、コンビニエンスストア、生協・宅配、介護食など)

2023年3月期第1四半期の海外売上高

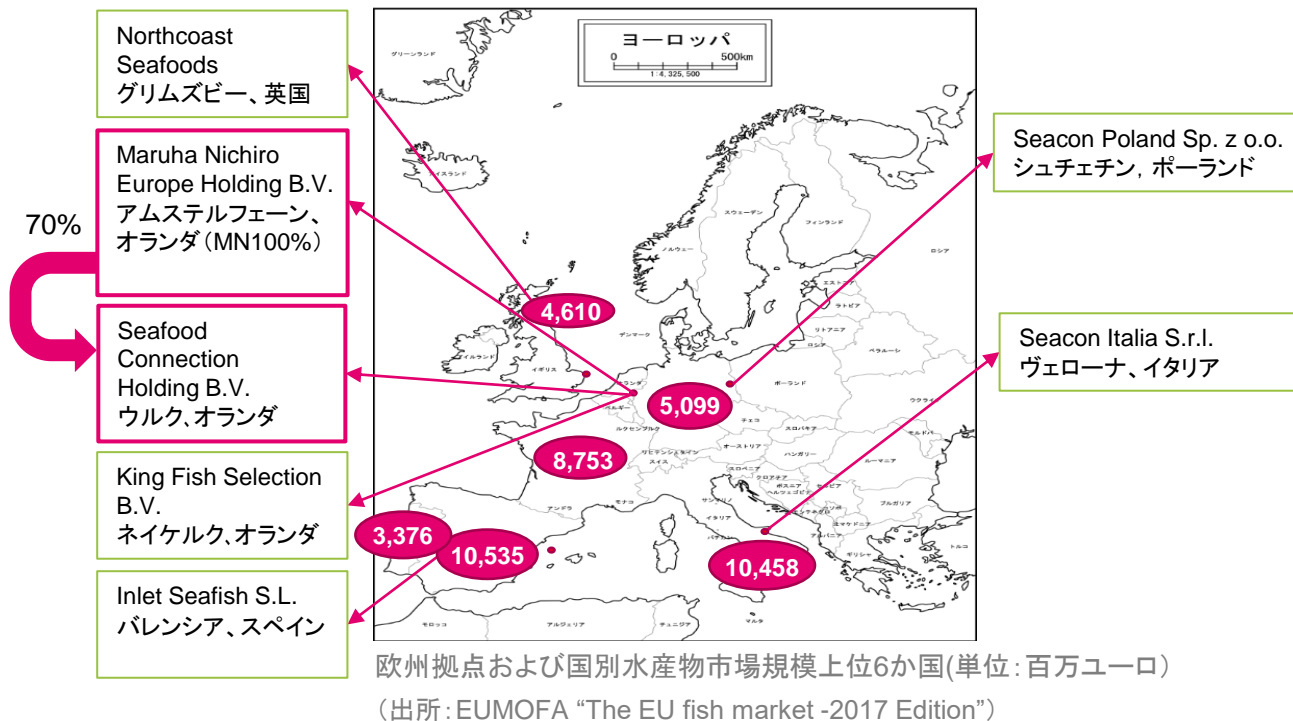
海外売上高	2021年度1Q	2022年度1Q	2024年度予想	海外売上高比率	2021年度1Q	2022年度1Q	2024年度予想
	346億円	437億円	2,150億円		17.1%	18.8%	22.4%



欧州事業の拡大～Seafood Connection社を拠点とした水産物の販路拡大～



中計最終年度(2025年3月期)計画
売上高約880億円(2022年5月末為替レート換算)



【近年のSeafood Connection出資歴】

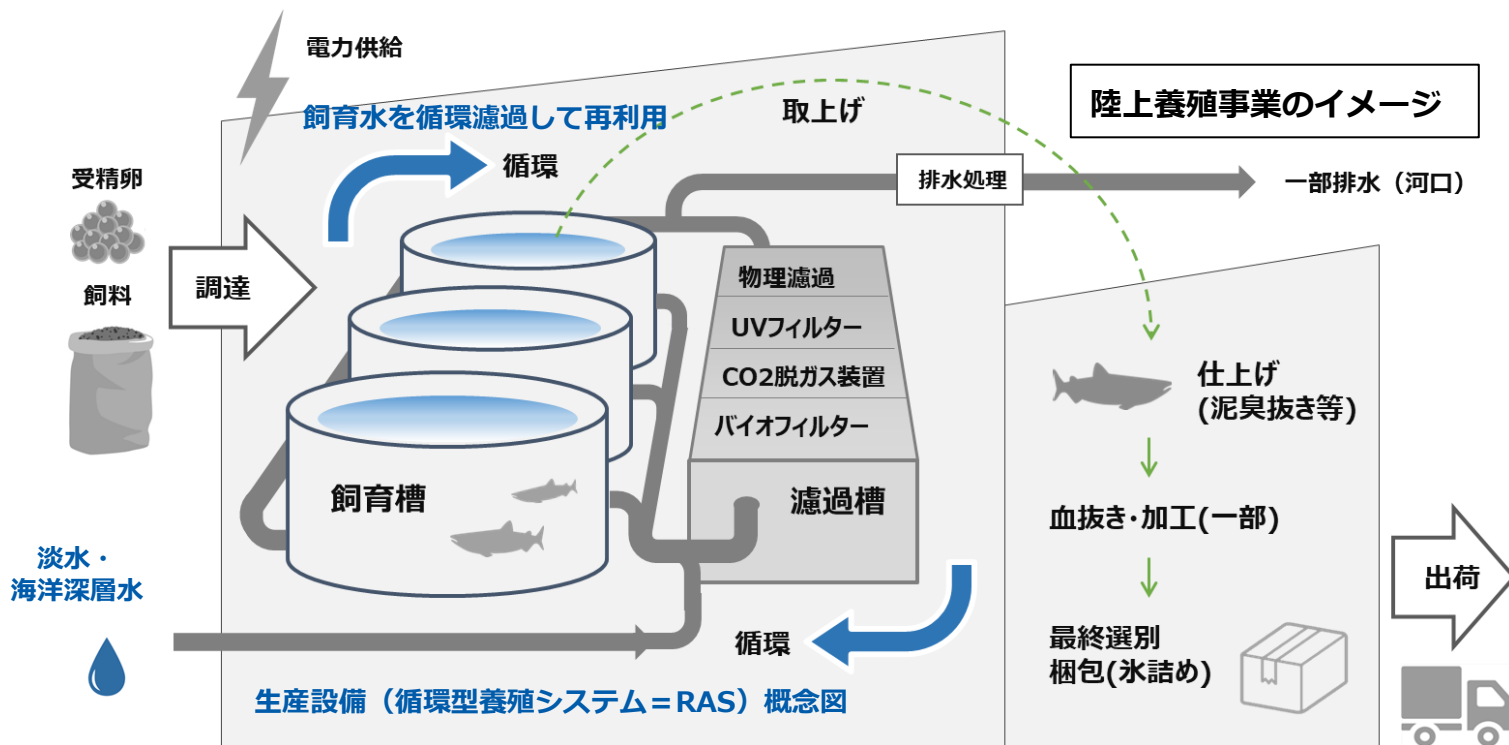
- 2021年1月 Inlet Seafish S.L.(スペイン) 子会社化(持分50.1%)
- 2022年4月 King Fish Selection B.V.(オランダ) 子会社化(持分51%)*
- 2022年5月 Northcoast Seafoods(イギリス) 子会社化(株式100%取得)*
- 2022年6月 Seacon Italia(イタリア) 設立*

*2023年3月期計画には数値を織り込んでいません。

サーモン陸上養殖事業に参入(2022年6月30日リリース)



三菱商事(株)との合弁事業で2022年10月を目途に新会社アトランド(株)を富山県入善町に設立し、アトランティックサーモンの陸上養殖事業に参入。原魚ベースで2,500トン規模の施設を建設予定。2025年度の稼働開始、2027年度の初出荷をめざす。



安定的かつ効率的な生産体制*1

低・脱炭素化*2

地産地消型ビジネスモデル*2

最小限のエネルギー使用量

豊富な黒部川の伏流水と、清浄性・低温安定性という特徴を有する海洋深層水を有効活用することで、最小限のエネルギー使用で安定的かつ効率的な養殖生産を実現し、環境価値と経済価値を同時に追求する。



リリースは[こちら](#)から閲覧できます

*1 RAS技術(上図参照)を活用し、AI・IoTを駆使して飼育環境をサーモン育成に最適な条件に調整することで効率の良い生産体制を実現する

*2 ノルウェーなどの生産地から日本に空輸されている生鮮サーモンに比べ、輸送距離の短縮化により温室効果ガスの削減が見込まれる

自己株式の取得状況について

当社は経営環境の変化に応じた機動的な資本政策の遂行のため、下記のとおり自己株式の取得を行っています。

■取得の内容

- ① 取得する株式の種類.....当社普通株式
- ② 取得する株式の総数.....2,500,000 株(上限) / 発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 4.75%
- ③ 株式の取得価額の総額.....50 億円(上限)
- ④ 取得期間.....2022 年6月1日～ 2022 年 10 月 31 日まで

(ご参考)2022 年3 月31 日時点の自己株式の保有状況
発行済株式総数(自己株式を除く) ...52,621,901 株
自己株式数.....35,009 株

■2022年7月31日時点での取得状況

取得した期間	取得した株式の総数	株式の取得価額の総額
2022年6月1日～6月30日	861,000株	2,117,219,400円
2022年7月1日～7月31日	438,900株	1,099,441,000円
上記期間の合計	1,299,900株	3,216,660,400円

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。